

むさしのどこでもミーティング 大切に残す 楽しく使う ―赤星邸の未来を一緒に考える― 市民意見要旨

資料2

参加者： 総合政策部 吉清部長
資産活用課 渡邊課長・大久保主査・増田主任・大内
市民 計26名

日時： 令和7年11月8日(土曜日) 18:00 から 20:15まで
場所： 旧赤星鉄馬邸 居間・食堂

説明資料： 第6回 武蔵野市旧赤星鉄馬邸保存活用計画策定委員会 資料1- 保存活用計画（素案）
旧赤星鉄馬邸の利活用に関する有識者会議報告書（一部抜粋資料）

No.	カテゴリー	内 容
1	動線(観覧ルート)について	赤星さんが見せたかった西側主玄関から入り、居間・食堂をとおリ、螺旋階段へと続く動線(観覧ルート)ではなく、礼拝棟から入るルートとする理由は？
2	↑	礼拝棟から入る案は、オリエンテーション的に赤星邸について学んだあと本邸に入るのわかりやすい。 ただしルートについては一つに決めずいろんな目線で見学できるようにしてほしい。
3	↑	居間・食堂から和室、子ども部屋へと廊下を使わずに通リ抜けられるプランニングがモダニズム建築の特徴の一つとなっている。 これを体験できるように復原してほしい。 また、自由な企画(利活用)をするためには、廊下を介して入る個々の部屋ではなく自由な間取りであることが不可欠である。
4	家具の復原 予算措置	復原された家具があると、当時の風景が垣間見えてよい。 復原費用に関しては、補助金の活用、企業版ふるさと納税、クラウドファンディングなどさまざまな方策を検討してほしい。
5	活用計画	「第5章 活用計画について」 5-2ページに“学びの場”とあるが、この建物から何を学ぶのか？ GHQ接收時代には、聞くところによると朝霞基地の司令官が住まっていたという。 その後、赤星鉄馬以外にも誰がこの建物を使ったかなど、もっと歴史や内容について精査してほしい。
6	利活用について	本日（11/8 一般公開）認知症カフェを赤星邸で実施した。 このように建物の再現に税金を使うのではなく、もっとシンプルに、穏やかに地域の人が使えるものにしてほしい。 改修や修復に時間を費やす時間がもったいない。その間も市民が使える施設として開放するべき。
7	地域コミュニティ	社会実験を手伝い、周辺地域のコミュニティに参加し、その大きさに気づかされた。 修道院があったことでできた雰囲気だ。 前回傍聴した委員会では、すでに設計が進行しているかのように感じた。 社会実験での内容を乖離している印象を受けた。 自発的なコミュニティを大事にしながら計画を進める必要がある。

No.	カテゴリー	内 容
8	地域からの要望	地域で活動している者からの要望として2点お願いしたい。 ① 地域の居場所がコミセンしかない。地域活動や打合せの場として30人程度が入れる会議室が欲しい。地域の人が日常的に使用できるレイアウトにしてほしい。 ② 防災が地域の課題となっている。建物は文化財になっているが、庭は防災広場的に整備してほしい。
9	公園施設	公園施設とは具体的にどのようなものをイメージしているのか？
10	修道会時代の歴史	竣工当時の姿へ復原することは大事だが、修道会時代の歴史が消えてしまう・かすれてしまうイメージだ。“開かれた場所”となることを最後のシスターたちも望んでいた。
11	公園施設 計画案と実態の乖離	前回の委員会を傍聴したが、図面等を用いて議論されており、公園施設の詳細がすでに決定しているように見える。この計画案の中でどこまで決めていくのかお聞きしたい。実態との乖離が大きく感じる。
12	家具の復原	家具を復原するにはかなりの費用がかかると思う。また、当時の家具がどのようなものだったのかわからない中、本当にその家具でよいのかという疑問もある。家具は来館者がそれぞれ想像するのが良い。復元は必要ない。
13	↑	家具は復原してほしい。想像では体感することが難しい。若い人への教育的配慮でもある。
14	工事期間	説明されたスケジュールによると工事期間が3か年と非常に長い。その間は全く使用できないのか？
15	公園施設	修室棟の解体は本計画で決定事項となるのか？
16	意見交換の場	今回、保存活用計画として、地域の人との意見交換が行われているが、設計段階でも同様に地域の人との意見交換は行われるのか？
17	修室棟	修室棟が建てられたのはいつごろか？ 設計者は誰か？
18	↑	今までの4年間の思いは保存活用計画策定委員に伝わっているのか？ 各委員に地域の生の声が届いていないように思える。 地域としては、ワークショップの中では修室棟は今後も使えるものと思っていた。楽しい活動をそのまま続けてほしい。